



荒川区西日暮里2-55-1  
国鉄労組東京地方本部  
発行責任者 鎌田博一  
編集責任者 常盤達雄

No.1793

2016年

4月5日

賃上げで生活向上を  
一人一人の力を結集し  
勝ち取るぞ16春闘

JR西日本が三月一六日、JR東海が一七日に回答を出し、その後各社からベア無しもあるが回答が出揃う中で、JR東日本のみ出されない状況が続いた。  
**各支社に緊急要請を実施**  
東京地方本部は組合員のベアスアップへの期待を受け止め、三月二三日に各支社に対し、神奈川・八王子・大宮地区本部とともに、緊急要請行動を行った。しかし、回答どころか交渉日程すら示されない状況に至り、東日本本部は三月三〇日に東京と東北の二会場で「二六春闘勝利！JR東日本に早期回答を求める抗議集会」を開催し、各地方からの闘う意思統一を行った。その結果、JR東日本から三月三一日に、ベア定期昇給の二〇分の一・五〇円などの回答を引き出す事ができた。

### 貨物分会 交流会開催

交流会開催

## 16春闘勝利・組織拡大へ 全分会長会議開催

東京地方本部は三月五日に田町交通ビルにおいて、全分会長会議を開催した。春闘を前に、大幅賃上げを勝ち取るため、そして、新入社員の入社を目前に控え、組織拡大を勝ち取るために、全機関・全組合員の意思統一を目的に開催したもの。

主催者あいさつで鎌田委員長は、「安倍首相は、勤労国民に過重な負担を強い、実質賃金は低下し続けている。その中で首相は経済界に賃上げを要請するが、経済界は慎重姿勢である。低迷する日本経済を立て直すには、雇用の安定と個人消費の活性化が必要不可欠。政治の力で賃上げを行うのではなく、低下し続けた賃金の底上げ、特に非正規労働者の待遇改善を視野に入れた一六春闘を闘うのが労働組合としての責務だ。政治的諸課題と結合させ、闘う春闘の再構築に向け、組織の力を結集しよう」などのあいさつを行った。



鎌田委員長



講演する福田弁護士

続いて、国労弁護団・福田護弁護士から「日本の岐路―安民法制と労働法制の現段階」と題して講演が行われ、安民法制の問題、労働法制改悪の現状が報告され、「憲法は政府をしばるもの。政府が都合よく変えていいものではない。災害対策を名目に、反対しにくい内容を出し、まず一度変えてみる『お試し改憲』を狙っている」などの話がされた。国労東日本本部・佐藤書記長からは「二〇一六年春闘とJRを取り巻く情勢」について報告がされた。

組織強化・拡大の取り組みとして、新橋支部・市川副委員長からは川崎発電所分会の拡大の取り組み、八王子地区本部・熊田組織部長からは西国立駅で拡大があった立川駅連合分会の取り組みを中心に報告がされ、地方本部松川書記長からは、組織強化・拡大の取り組み、一六春闘の取り組み、戦争法廃止及び反原発などの大衆行動といった、さまざまな取り組みについて提起を行った。

組織拡大の報告(別記事参照)が、馬喰町駅からは、駅遠隔操作システムや委託の実態が、黒磯機関区からは貨物会社の労働条件の実態など様々な取り組みの報告がされた。最後に松川書記長からまとめがあり、鎌田委員長の団結がんばろうで、大幅賃上げと組織拡大を全体で誓い合った。



大宮車両所分会 橋本分会長



中嶋青年部長と松本さん

来賓あいさつでは、国労本部・矢部執行委員や東日本本部・佐藤書記長、大宮地区本部・小林委員長をはじめ、多くの方からあいさつが続き、二月二六日に大宮地区本部・大宮車両所分会は、二月五日に国労加入した松本さん(二四歳)の加入歓迎会を開催した。橋本分会長は「加入は私たちの運動の正しさが証明されたこと。ここで終わることなく、さらに新たな青年に加入してもらって、車両所分会の名前を広めたい。加入してくれた松本さんを国労全体で歓迎し、分会の発展に努めたい」などの主催者あいさつ。乾杯を行い歓迎会は一気に盛り上がった。

## 加入歓迎会 大宮車両所分会

国労はJR各社に対し二月二二日に、基本給一五〇〇円引き上げ、グリーンスタッフの賃金引き上げなどの春闘要求を提出。JR東日本会社と、三月一日、一日と交渉を行ったものの、JR各社への回答指定日の三月一六日を過ぎて、回答が示されなかった。

東京地方本部は、これからも各級機関とともに、安全・仕事総点検運動や、労働条件改善、安全・安定輸送の確立、そして新入社員対策をはじめとした組織強化・拡大などに全力を挙げていくので、全組合員の総決起を求めるものである。

東京地本・佐藤組織部長からは「若い人が増えると国労運動の継承・発展に大きな力になる。青年部の一員として頑張ってください」などのあいさつがされ、加入した松本さんから「国労の魅力を感じていました。二年間悩みましたが加入しました。いろいろな人に激励され入ってよかった」などのあいさつがされた。中嶋青年部長からは、激励とともに、国労バッジ・国労組合員証が手渡された。その後も、二年前に加入した丸山さんなど、多くの方からお祝い言葉が続き、最後まで楽しい歓迎会となった。

交渉再開・早期回答へ  
JR東日本へ抗議！

東京地方本部は、三月三日に地本会議室において貨物分会交流会を開催し、貨物職場における取り組みの交流を行った。

主催者あいさつで松川書記長は、JR貨物会社との春闘交渉の状況や、直前にせまった北海道新幹線開業に伴う問題、戦争法や原発の問題と合わせた春闘期の取り組みなどについて報告を行った。続いて東日本本部の鈴木特別執行委員(貨物担当)から、JR貨物の状況について報告がされた。

学習会として、全国貨物協議会・眞田議長から「人件費比率は二六・五%で優良会社レベル。これだけの利益を上げていながら、ベアがなぜ実施できないか、再考を求める。戦争法ではJR貨物は指定業者。現在でも米軍や自衛隊の物資を運んでいて狙われやすい。W泊(明けで帰ったその夜にまた出勤)が増加し、家で寝られるのは月の半分以下」など、様々な実態や取り組みが報告された。

全体交流では、黒磯機関区分会から「労働条件改善を求める署名に、多くの他労組組合員に署名してもらった。他労組の人は、国労組合員一人一人の動きを見ている。川崎車両所塩浜派出所からは「若年退職者の増加を会社も認めている。会社の将来展望が見えてこない。若手がおらず、技術継承ができない」などの報告がされ、最後に東貨協・長島議長から「入社後すぐ辞める人、定年まで勤めず若年退職などの状況。そこを打破していくのは国労。委託会社の高齢化も激しい。プロパー社員の労働条件改善も必要」などのまとめがされ交流会は終了した。



東京貨物協議会 長島議長

